
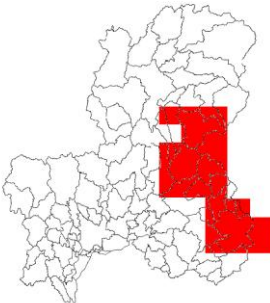


ミヤマモミジイチゴ		<i>Rubus pseudoacer</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)			バラ科
選定理由	県内では産地に限られる稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(岐阜県博物館) 標本	
形態の特徴	ほとんど刺のない小さな直立する落葉低木。茎は直立または傾上し、細く、円柱状、時にわずかに刺がある。葉は単葉で膜質、円形、基部は心形、掌状に5-7裂し、鋸歯がある。葉柄は細い。花序は頂生し、7-8月まばらに径1cm強の3-7花を着ける。萼片は卵形。花弁は白色、広卵形。雄蕊は多数。雌蕊は多数。果托は卵球形で小さい。果実は球形、赤色。		
生態的特徴	山地、亜高山の湿潤林内や林縁に稀に生える。		
分布状況	本州(関東、中部、近畿)、四国、日本固有。県東部の山地、亜高山の湿潤林内や林縁に稀に生える。		
減少要因	山林管理の停滞に起因する林縁の樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。		
保全対策	山林管理の促進による林縁の低～中茎草地の維持、林床の照度確保。		
特記事項			
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 23. <i>Rubus</i> L.. N. Naruhashi		

文責:高野裕行